



## 第16回

# 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。



### 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。



### 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

## 目次

- 2 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介
- 3 ごあいさつ
- 4 講評
- 6 子育て支援活動の表彰
- 15 女性研究者への支援





## ごあいさつ

### 高田 幸徳

住友生命保険相互会社  
取締役 代表執行役社長

住友生命では、「サステナビリティ経営方針」にて、豊かで明るい健康長寿社会の実現に貢献すること、持続可能な社会の実現に貢献し持続的に成長することを明確化しています。事業活動を通じてSDGs達成に向けた取組みを進め、「健康増進」「子育て支援」「地球環境の保護」を重点分野として、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

「子育て支援」事業の大きな柱が、この「未来を強くする子育てプロジェクト」です。住友生命の創業100周年記念事業として2007年に開始し、今回で16回目を迎えました。

今年度は新型コロナウイルスの影響に加えて物価上昇等の影響もあり、生活不安が続く厳し

い状況下でしたが、子育て支援に取り組まれている皆さまは、地域や家庭の課題を乗り越えようと奔走しておられ、また、女性研究者の皆さまは、子育てとの両立を行いながら意義深いテーマの研究に懸命に取り組んでおられます。

こうした取組みが、これからの未来を創る子どもたちに夢と希望を与え、ロールモデルとなって、社会全体で子どもを見守り育てる環境づくりに向けた支援の輪が広がることを願っています。

住友生命は「一人ひとりのよりよく生きる=ウェルビーイング」な社会の実現に貢献し、お客さま・社会とともにサステナブルな未来を目指しています。これからも健康で心豊かな社会づくりに向け、さまざまな活動に取り組んでまいります。

## 選考結果

第16回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2022年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には225組、「女性研究者への支援」には109名のご応募をいただきました。選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

### 子育て支援活動の表彰 応募数225組

- 文部科学大臣賞/スミセイ未来大賞の1組に授与
- 厚生労働大臣賞/スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞/2組
- スミセイ未来賞/10組

表彰数  
**12**組

### 女性研究者への支援 応募数109名

- スミセイ女性研究者奨励賞/10名

表彰数  
**10**名



選考委員長

## 汐見 稔幸

東京大学名誉教授、  
白梅学園大学名誉学長

**今** 回の子育て支援活動の選考で特に印象に残ったのは、子育て支援をしてきた団体が高齢者にも手を差し伸べたり、学習支援専門だった団体が生活支援や就業支援に乗り出したりするなど、そこに新たなニーズがあればそれも引き受けてしまおうという柔軟な活動が増えてきたことです。こうした存在が何より心強く、子育て支援が他の活動とリンクして、新しい地域社会をどうデザインしていくのか、未来への期待が感じられる結果となりました。

近年、研究者が短期的な成果を求められるようになり、長期的なスパンで行われるべきダイナミックな研究がしにくくなっています。そんななかであっても、今回ご応募いただいた研究には、女性ならではの視点で捉えたダイナミックなテーマが多く見られました。こうした研究者をサポートしていくことが、この先の日本社会の底深さにつながるのではないかと、改めて感じられる選考となりました。



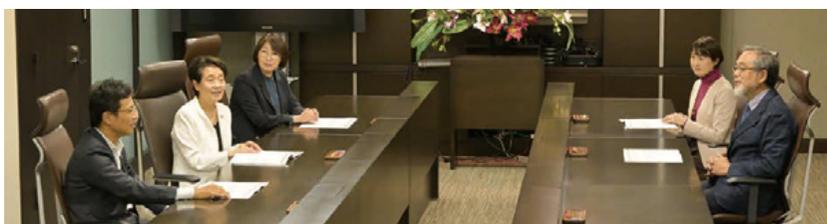
選考委員

## 大日向 雅美

恵泉女学園大学学長

**三** コロナ禍が長期にわたるなか、構造的に弱い立場に置かれている女性研究者への影響を危惧しながら選考に臨みました。しかし、そこには、ピンチをチャンスに変えようと踏ん張る研究者の姿があり、大変心強く感じました。コロナ禍で人間関係が希薄になりつつあるなか、人間同士の関係性に注目し、社会的に弱い立場に置かれている人たちを対象とする研究が多く見られました。感情論ではなく共生の哲学をテーマとし、さらに内省的な考察を加えるという姿勢に感銘を受けました。また、減少傾向にあったグローバルな研究が増えたこともうれしいことです。

一方、コロナ禍で家庭環境が大きく変化し、心が折れかかっている方もいました。大変な状況が推察され、心が痛みます。どうか負けずに研究に励んでいただきたいと思います。





選考委員

**奥山 千鶴子**

認定NPO法人  
びーのびーの理事長

**16** 回目の選考となり、過去に惜しくも受賞に至らなかった方々が活動を進化させ、再度チャレンジしてくださる姿が見られました。あきらめずに再応募くださったこと、さらにその中のいくつかの活動を表彰できたことをうれしく思います。

コロナ禍は、旧来よりあるプレイパークなどの外遊びの場を、再評価するきっかけとなりました。また子どもたちが、友だちと遊ぶ機会も場所も減っていくなか、自身の所有する施設を開放して受け入れるという新たな潮流が生まれているように感じます。そのほか、医療的ケア児のサポート、貧困家庭のサポートなど、身近にある緊急性の高いテーマに注目した活動も見られました。受賞された皆さまからは、自分たちが持つ資源を最大限に活用して、子育てを支えようという熱い思いを感じることができました。



選考委員

**米田 佐知子**

子どもの未来サポートオフィス  
代表

**2022** 年でこども食堂という形態の活動は、10年目を迎えました。こども食堂に学習支援や多世代交流などの要素が加わる活動パートナーのご応募が、今回も多数ありました。モデル性の高かった活動が全国に広がり、浸透してきたことを感じる選考でした。

コロナ禍に物価高騰も相まって、食を介した場づくりの活動は、食糧支援に形態を変えて、以前よりも困難を抱える家庭とつながる窓口として機能、定着し始めてきています。また、一気に普及したオンラインを活用した取組みは、今後の新しいモデルとして可能性を感じました。

外国ルーツの子ども、障がい児や医療的ケア児、虐待やDV被害を受けた子ども、困窮世帯の子どもの学びやキャリア支援など、対象となる子どものニーズをくみ取って、活動を多様化させている様子に感銘を受けました。地域、市民の理解と応援、行政などとの連携がさらに進むことを願っています。



選考委員

**香山 真**

住友生命保険相互会社  
執行役常務

**現** 在、コロナ禍に加えて物価上昇の影響等もあり、多くの人から生活への不安の声が聞かれます。また地政学的リスクや世界的なエネルギー問題から、将来を悲観する方も増えています。一方で、このような情勢だからこそ、地域や世代を超えたさまざまな助け合いも芽生え、広がっているように感じます。

そういった状況の中、第16回は「子育て支援活動」225組、「女性研究者」109名と多数のご応募をいただきました。コロナ禍をはじめさまざまな課題に向き合い、力強く乗り越えようとする、多くの取組みが寄せられました。社会の変化の中で続けてまいりました本プロジェクトが、多くの方を励まし、良い取組みを世の中に広げていくことの一助になると幸いです。

# 受賞団体のご紹介

P8

スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞



特定非営利活動法人  
みんなのおうち

P9

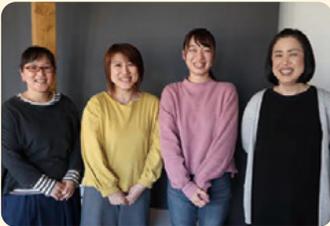
スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞



特定非営利活動法人  
ただいま

P10

スミセイ未来賞



一般社団法人  
Orange Kids' Care Lab.

P10

スミセイ未来賞



特定非営利活動法人  
オン・ザ・ロード

P11

スミセイ未来賞



NPO法人  
CLACK

P11

スミセイ未来賞



特定非営利活動法人  
子育てパレット

P12

スミセイ未来賞



特定非営利活動法人  
子どもセンターパオ

P12

スミセイ未来賞



団樂長屋プロジェクト

P13

スミセイ未来賞



特定非営利活動法人  
日本冒険遊び場づくり協会

P13

スミセイ未来賞



NPO法人  
母力向上委員会

P14

スミセイ未来賞



一般社団法人  
ひとことつむぐ

P14

スミセイ未来賞



一般社団法人  
よりそいネットワークぎふ

# スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞

## 特定非営利活動法人 みんなののうち

東京都新宿区 代表者:小林 普子



活動開始年月 2005年3月

スタッフ数 5名

連絡先 〒162-0043  
東京都新宿区早稲田南町31  
TEL 090-9825-3797

### 🌸 受賞の言葉 🌸

20年近く地域コミュニティ再生を目指した子育て支援、特に外国にルーツを持つ人々への支援活動を継続してきたことが評価され、今回の受賞につながったものと思います。活動を絶やさずさらにバージョンアップし、今後も外国にルーツを持つ青年たちが自立できるキャリア教育を充実させたいと思います。

新宿区で外国にルーツを持つ子どもたちやその家族を長年にわたって支援、都市部でのコミュニティ再生に取り組む活動

### 外国にルーツを持つ子どもたちを支援

私たちが活動しているのは、区内でも外国人比率が高く、さらに貧困率も高いといわれるエリアです。これまで新宿区と協働で、外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援を実施してきました。そのなかで、学習支援だけでは救いきれない、低所得家庭やひとり親家庭などが多くあることがわかってきたため、より大変な状況にある子どもたちを対象とした居場所を開設し、食事提供や生活支援などさまざまな場面でサポートしています。

### さらに重要性を増す家族への支援

拠点では、子どもたちが社会的に自立することを目指し、進学や就職に向けたキャリア教育も実施しています。一方で、子どもたちの自立には親の協力や理解が不可欠です。親を対象とした、日本語支援や生活支援も実施し、日本で円滑に生活していけるようサポートしています。今後、ますます外国人が増加することが想定されるなかで、家族への支援も重要性を増していると感じます。

### 都市部でのコミュニティ再生を

現在、地域の人口に占める外国人の比率は、国内でもトップレベルにあります。住民と移住者が一体となって地域作りをしていかないと、このままでは分断が生まれ、やがて地域コミュニティが成り立たなくなるのではないかと危惧しています。私たちは異文化の交流事業などにも積極的に取り組み、子どもたちの世代には新たなコミュニティが形成できることを願って活動しています。

# スミセイ未来大賞・厚生労働大臣賞

## 特定非営利活動法人 ただいま

茨城県ひたちなか市 代表者: 増田 真紀子



活動開始年月 2015年5月

スタッフ数 25名

連絡先 〒312-0011  
茨城県ひたちなか市中根3542  
TEL 029-274-5623

### 🌸 受賞の言葉 🌸

このたびは、このような名誉ある賞をいただけたこと、大変うれしく励みに感じています。出会ったその一人の人に必要な支援は何かを考えながら、誰もがいきいきと生きられる世の中になるよう、また、ここから出て行っても「ただいま」と帰ってこられる場所になるよう、温かい場を目指して今後も活動していきたいと思えます。

寺院の特性を生かして子どもの居場所を—  
地域全体での子育てを支える活動

### お寺が地域の子育て拠点

かつて、お寺は子どもたちが遊ぶ場所でもありました。しかし、今はお寺の境内で子どもたちの声を聞くことは、ほとんどなくなっています。元来、お寺は地域に開かれたものであるはずで、厨房や会館など、お客様を迎え入れるための設備も整っていたことを生かして、東日本大震災の影響で家にこもりがちだった母親たちに呼びかけ、子育てカフェを始めました。

### 子育ての多様なニーズに対応しています

子育てカフェ開設以降、母親たちの声に応じて活動を増やしてきました。洋服のお下がり会0円マーケットなども、参加者たちの声から始まりました。そんななか、子どもの貧困や孤食にも目が向くようになり、今では、放課後の小学生の居場所やフリースクールといった子どもたちの受け入れ活動を食事付きで行っています。また、生活困窮家庭を対象としたフードパントリー、そこから派生した地域食堂や若年女性の支援など、多様な支援を展開するようになりました。

### 地域で良い循環が生まれています

これまでの活動で、お寺には子どもたちの笑い声が戻ってきました。地域食堂には、クレープ屋や駄菓子屋などの出店もあり、お祭りのような賑やかな雰囲気です。また、子育てカフェを利用していた方がスタッフとして参加してくれたり、以前遊びに来てくれた子どもたちが手伝いに来てくれたりもしています。これからも、みんなが「ただいま」と帰ってこられるような場所として、活動を続けたいと思えます。

## スミセイ未来賞

### 一般社団法人 Orange Kids' Care Lab.

福井県福井市 代表者:戸泉 めぐみ

医療的ケア児や障がいのある  
子どもたちの就園・就学をサポート、  
地域をエンパワメントする

**重**い障がいや日常的に医療的ケアが必要な子どもたちの通所施設を運営しています。医療・生活面でのサポートだけでなく、子どもたちが地域の中でさまざまな体験を通じて成長していけるよう就園・就学支援も行っています。支援においては家庭はもとより園・学校や行政機関、地域の人たちの理解・協力が必要となり、その過程は地域全体のエンパワメントにもつながっています。



活動開始年月 2012年4月  
スタッフ数 23名  
連絡先 〒910-0063  
福井県福井市灯明寺3丁目3511  
TEL 0776-21-3339

**受賞の言葉** このたびは栄えある賞をいただき誠にありがとうございます。医療的ケアがあっても地域の保育園や学校に通うことができる、どこにでも気軽に旅行に行けるなど、子どもたちが医療や障がいに左右されずに「自分らしい選択ができる」よう、これからも活動を続けていきます。引き続き応援よろしくお願ひします。

### 特定非営利活動法人 オン・ザ・ロード

東京都葛飾区 代表者:高橋 歩

世界中の子どもたちをつなぎ、  
学習・交流の機会を提供し相互理解を図る、  
オンラインならではの活動

**世**界には貧困に苦しみ、労働を強いられる子どもたちがたくさんいます。当団体では、学校を寄付するなど、こうした子どもたちを支援してきました。日本と世界の子どもたちを結び、学習や交流の機会を提供するオンライン授業を開始。世界中の子どもたちが互いに学び合い、文化的にも交流することで、今まで見えなかった新しい世界を知り、行動を始めるきっかけとなればうれしいです。



活動開始年月 2008年5月  
スタッフ数 13名  
連絡先 〒125-0061 東京都葛飾区亀有5-39-11  
ライオンズプラザ亀有703  
TEL 090-3514-4755

**受賞の言葉** このたびは、輝かしい賞を頂戴し光栄に思います。コロナ禍により開始した本事業ですが、今後さらに進むオンライン化に取り残される子どもたちがいないよう、また、人とのつながりを感じ取りながら、学べる事業にしていきたいと思います。この賞により、継続的な活動ができることに感謝し、さらに飛躍した活動になるよう尽力していきます。

## NPO法人 CLACK

大阪府大阪市 代表者:平井 大輝

さまざまな困難を抱える高校生を  
対象とする、プログラミング学習と  
キャリア支援を実施

学習支援活動や子ども食堂は全国に広がっていますが、高校生の年代ではその支援は急激に減少し、支援の手からこぼれがちです。プログラミング学習には、自分が組んだものが実際に動く様子が見られるため、成功体験を積みやすいという利点があります。学校の科目が苦手でも興味を持ちやすく、社会に出てからも有効なツールです。私たちは困難な環境に置かれた高校生たちを、プログラミング学習で支援しています。



活動開始年月 2018年6月  
スタッフ数 フルタイム職員6名 その他有給職員18名  
連絡先 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3-8-15  
EPO新大阪ビルディング1001号  
Mail [contact@clack.ne.jp](mailto:contact@clack.ne.jp)  
Web <https://clack.ne.jp>

**受賞の言葉** このたびはこのような賞をいただき大変光栄です。2018年の設立以後、困難な状況にある高校生へ完全無料でプログラミング学習とキャリア教育の支援を届けてまいりました。今後も寄付や寄贈でご支援いただいている方々のお力添えをいただきながら「貧困の連鎖」を断ち切る、構造を解消することを目指し、尽力します。

## 特定非営利活動法人 子育てパレット

東京都足立区 代表者:三浦 りさ

「大丈夫、ひとりじゃないよ!」を  
モットーに、ママたちの育児不安を  
多方面から支える

出産前から未就園児までのママたちをサポートするため、足立区で子育て支援拠点「マタニティ&ベビーハウス Ohana」の他、2カ所で子育てサロンを運営しています。産後ケアの他、子育て訪問や24時間365日のLINE相談も実施。ママたちの悩みに寄り添う活動です。「ママなんだから頑張らなさい」ではなく、「大丈夫、ひとりじゃないよ」と周りの人たちが気軽に声をかけ、孤立しない社会を作っていきたいと思っています。



活動開始年月 2011年8月  
スタッフ数 4名  
連絡先 〒121-0816 東京都足立区梅島3-4-8  
うめじまKSビル2F  
TEL 03-5888-6943

**受賞の言葉** このたびは名誉ある賞をいただき、心から感謝申し上げます。2011年から子育てママの心の声をきき、伴走という形で寄り添い続けてきた活動が認められたことを大変うれしく思います。今後も子育てママが心の負担を遠慮なく吐き出し、必要なサポートにつながり、立て直しができるよう、孤立しない社会形成を目指して尽力してまいります。

## スミセイ未来賞

### 特定非営利活動法人 子どもセンターパオ

愛知県名古屋市 代表者：菱田 理

子どもの権利基盤型社会的養護に基づき、  
子どもの保護と  
その後の社会的自立を支援する

子どもの事件に関わる弁護士が中心となって立ち上げたNPOで、子どもシェルター「丘のいえ」と自立援助ホーム「ぴあ・かもみーる」を運営しています。「ぴあ・かもみーる」では、傷ついた心をケアしつつ、専門のスタッフがサポートしながら、生活習慣を整え社会的自立ができるように支援しています。また、各子どもを担当する男女ペアのパートナー弁護士2名が、在所だけでなく退所した後も継続してそれぞれの子どもを支援しています。



活動開始年月 2006年12月

スタッフ数 13名

連絡先 〒461-0001 愛知県名古屋市東区泉2-22-17  
えむづビル2F 原田・高橋法律事務所内  
TEL 052-931-4680

**受賞の言葉** 私たちが関わっているのは、主に虐待などで家に帰れず、身を隠さざるを得ないなど、支援が必要な10代後半の子どもたちです。深く傷ついた子どもたちを支える活動は、まったく綺麗ごとではなく、極めて地道な活動ですが、このような素晴らしい賞をいただけて、私たちは勇気と力をいただきました。このたびは本当にありがとうございます。

### 団欒長屋プロジェクト

大阪府豊中市 代表者：洲上 桃子

「子どもを中心とした多世代交流の拠点」  
として、かつての長屋暮らしのような  
ゆるやかなコミュニティをつくる

木造平屋を改装し、学童・乳幼児保育をはじめホームサポーター派遣、子ども食堂や学習支援などを行っています。拠点の目の前のスペースで開催する流しそうめんや縁日などのイベントは、多世代交流の場にもなっています。子どもを真ん中に、地域に根差した活動を展開し、ひとり親家庭や転勤族など孤立しがちな家庭とゆるくつながり、向こう三軒両隣の精神で「困ったときはお互いさま」のコミュニティ作りに取り組んでいます。



活動開始年月 2013年5月

スタッフ数 12名

連絡先 〒560-0036  
大阪府豊中市蛍池西町1-3-32  
TEL 06-6836-9011

**受賞の言葉** 乳児から大学生まで子どもたちの成長を見守り続け、今年で10年。その節目にこのような素晴らしい賞をいただき、身が引き締まる思いです。小規模だからこそさまざまな背景を持つ子育て家庭に寄り添い、互助的でアットホームな拠点運営をしてこられました。今後はさらに地域の「子育て力」の要として、細やかな支援活動を行います。

## 特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

東京都豊島区 代表者: 関戸 博樹

子どもたちが自由に遊べる  
「冒険遊び場」をつくる活動を全国に広げる

**冒**険遊び場(プレーパーク)は、プレーリーダーや地域の大人の見守るなか、子どもたちが自由な発想で遊べる場所です。子どもたちは、自ら育つ力があり、自由な遊びはそのためにより必要不可欠なことです。また、子どもが遊びの中で危険に挑戦する責任を大人や社会が奪わず、見守り寄り添うことも大切です。当団体は、こうした外遊びの魅力と意義を全国に発信しながら、各地での冒険遊び場づくりを支援する中間支援組織です。



活動開始年月 2003年8月  
スタッフ数 4名  
連絡先 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-57-6  
MCオフィス311号室  
TEL 03-5430-1060

**受賞の言葉** 日本で冒険遊び場づくりがはじまって50年近く。日本の子どもたちが遊び育つことができる場所が広がることを願って、全国各地で多くの実践者の方たちが活動を展開、継続されていることに敬意を表します。当会も設立から20年。今後も「遊びあふれるまちへ!」の実現のため活動を続けていきます。

## NPO法人 母力向上委員会

静岡県富士宮市 代表者: 塩川 祐子

当事者目線から多様な支援を実施、  
地域をエンパワメントし  
子育て環境をデザイン

**子**育て拠点で母親たちの子育てやその後の社会復帰をサポートするほか、行政と協働して市内外に「ベビーステーション」を登録設置するなど、子育てインフラづくりにも取り組んでいます。サポートスタッフは、今まさに子育てをしている母親たち。新規事業も母親たちが当事者目線で発案し、自分たちでチームを組んで立ち上げます。母親たちの力を集めて、地域をエンパワメントし、皆で子育てを支える社会を目指します。



活動開始年月 2008年10月  
スタッフ数 37名  
連絡先 〒418-0039  
静岡県富士宮市野中1136-5  
TEL 0544-78-0741

**受賞の言葉** 支援される側だったお母さんが支援する側になり、自信を持って社会に戻っていただけるような当事者の場を作ってきたことを評価していただきありがとうございます。すべての人が生まれてきてよかったと思える社会を作るため、今後さらにお母さんたちの力を活かし、一人ひとりその人らしい子育てができる環境を作れるよう努力していきます。

## スマセイ未来賞

### 一般社団法人 ひとことつむぐ

大阪府大阪市 代表者:足立 須香

ここにすれば誰かいる!  
困りごともなんとかなるかも!気軽に立ち寄り  
ご縁をつなぐみんなの「抛り所」

私たちが活動するのは多様な文化が共存する町です。かつては、小学校が地域の交流の中心でした。その小学校の統廃合が決まり、学校を通じたコミュニティの希薄化が懸念されました。そこで、地域の交流拠点とすべく町の一角に家屋を購入。木曜日には子どもたちに手作りのお弁当を配布。「誰かに会いたい」「話を聞いてほしい」と思ったら、誰でも気軽にふと立ち寄れる、そんな身近な「抛り所」を目指しています。



活動開始年月 2018年8月

スタッフ数 5名

連絡先 〒544-0033  
大阪府大阪市生野区勝山北5丁目7-11  
TEL 06-6796-9897

**受賞の言葉** 私たちの小さな地域活動を選んでいただき心より感謝申し上げます。この町が大好きで退職後も何か関わっていきたくて仲間と始めた活動も5年目。この受賞を励みに「まちの抛り所～Yosuga～」と名付けたこの場所で、今後は「子どもたちのために何かやりたい」という大人たちの思いを紡ぎ発信する活動も行っていきます。

### 一般社団法人 よりそいネットワークぎふ

岐阜県岐阜市 代表者:中川 健史

多様な得意分野を持つ民間団体が、  
ネットワークを組むことで  
幅広い支援を実現

岐阜県内の民間団体がネットワークを組んで活動しています。参加団体は、学習支援や生活支援など、得意分野で子どもたちを支えてきましたが、社会環境がより複雑化し、個別の支援は限界にきていました。そこで、ネットワークを組むことによりこの課題を解決しようと、ノウハウやリソースを互いに持ち寄り活動を開始。行政からの信頼がさらに高まるとともに、効果的で効率的な幅広い支援活動が可能となりました。



活動開始年月 2016年4月

スタッフ数 100名(全事業で)

連絡先 〒502-0812  
岐阜県岐阜市八代3-27-8ふれあいスペース内  
TEL 090-7432-9158(中川)

**受賞の言葉** 「できること持ち寄り」で困難な状況にある子どもとそのご家族を支えていこうと地域で活動してきた9つの団体が集まり、「ネットワークを法人化」して活動を開始。それぞれの団体が持つ違いこそがネットワークのみならず地域の貴重な財産になってきました。今次、受賞を機によいよ確かな歩みを始めていきたいと思ひます。

## スミセイ女性研究者奨励賞



### 有間 梨絵

東京大学大学院  
教育学研究科

研究  
テーマ

学校看護婦から養護訓導、養護教諭に至る  
実践思想と1980年代における  
「保健室登校」開拓の歴史的検討

#### [ 内 容 ]

「養護教諭」は日本独自の教育職である。本研究は、その時々の子どもの健康課題や社会的要請と格闘する中で養護教諭が開拓してきた教育実践とその思想を実証的に解明する。学校の周縁ともいえる保健室という舞台に焦点化することで、性や健康、貧困、不登校といった困難な状況にある子どもたちの姿を映し出し、そうした困難の社会的な原因を隠蔽し、子どもたちを教室や学校から排除してきた構造を問うことができる。と考える。

#### 受賞の言葉

このたびは、栄えある賞をいただき、誠に感謝申し上げます。研究と育児の両立は時間的に大変厳しく、家族や恩師のサポートがあり、継続することができておりました。今回大変素晴らしいプロジェクトに出会い、大きな支援をいただけることになりました。今回の受賞を励みに、より一層社会へ貢献していけるよう精進いたします。



### 大形 綾

京都外国語大学  
非常勤講師

研究  
テーマ

新型出生前診断をめぐる  
新しい倫理モデルの構築

— アーレント思想を手掛かりに —

#### [ 内 容 ]

ドイツの哲学者、ハンナ・アーレントの思想にある「誕生」には、生まれ来る人々の自由と複数性を肯定する視座が据えられている。しかし、従来の「誕生/死」という対比では、「誕生」の持つ多義性が単一化されてしまうと考える。本研究は、アーレントの「誕生」概念を「生殖」という観点から再解釈するとともに、「新型出生前診断(NIPT)」をめぐる倫理的問題を考察し、その活用に関する新たな倫理モデルを構築することを目的とする。

#### 受賞の言葉

このたびは、栄えある賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。第二子をお腹に宿しながら博論を執筆していたさなかに、医師から出生前診断の受診を勧められ、悩み苦しんだ経験が本研究の出发点となりました。今回の受賞を励みに、家族との時間を大切にしながら、同じ問題に直面するたくさんの女性を助ける研究に邁進してまいります。

## スミセイ女性研究者奨励賞



### 小川 絵美子

東京外国語大学  
アジア・アフリカ言語文化研究所

研究  
テーマ

多様性社会における  
仏教と民間信仰の通文化的研究

— 日本とタイの比較研究を中心として —

#### 〔 内 容 〕

タイ王国は仏教国として知られるが、インド神話や土着のアニミズムなど、他の宗教的要素とも混交した独自の発展を遂げてきた。日本とタイの仏教は、南伝の上座仏教、北伝の大乗仏教というように系統の異なるものとして分類されてきたが、民間信仰を受容し柔軟に変化してきた部分に多くの注目すべき共通点があると考えられる。本研究は、タイにおける信仰の多様性を、日本の「神仏混淆」との比較から人類学的に考察するものである。

#### 受賞の言葉

ご選定いただき、心より御礼申し上げます。家庭も研究も中途半端、目指す姿とのギャップに悩み、自分を責める日々でした。それでも諦めきれずにいた研究をまだ続けていてもいいのだと、研究ペースや自分の生き方をも肯定していただいた気持ちです。受賞を励みに、家族と過ごす時間も大切に、一層研究に励んでまいります。



### 鈴木 和歌奈

日本学術振興会 RRA 海外特別研究員  
オランダ・アムステルダム大学

研究  
テーマ

妊娠・出産にマイクロバイーム研究が  
及ぼす影響

— 科学と文化の接点に注目して —

#### 〔 内 容 〕

マイクロバイーム（微生物叢）研究では、人間の皮膚、腸、腔などに生息する微生物が人間の活動に影響を与えていることが明らかになり、特に出産や子育てに微生物は大きく関わることがわかってきた。本研究は、妊娠・出産の文化が大きく異なるオランダと日本との比較研究を行い、こうした人間と微生物叢についての先端生命科学研究が、どのように妊娠・出産の言説や実践を変えるのかを明らかにする。

#### 受賞の言葉

海外で研究をしていると、日本の若手研究者への支援や福利厚生がどれほど薄いのかを痛感します。とてつもなく重い負担が個人の肩にのしかかっています。今回、賞を受賞できたことは大変うれしく思います。これを機に、研究のみならず、若手研究者をめぐる制度を整える活動にも力を入れていきたいと思っています。



## ターン 有加里ジェシカ

東京大学大学院  
人文社会系研究科

研究  
テーマ

### 非市場領域における仕事分担の 理想と現実に関する実証研究

#### 〔 内 容 〕

家庭における家事・育児・介護や、地域社会におけるボランティア活動など、非市場領域にはさまざまな仕事がある。このような仕事を分担する際、例えば皆で平等に分担すべきだと思われるのに常に同じ人が引き受けているというように、しばしば理想と現実が乖離する。本研究では、理想と現実の乖離の実態およびそのメカニズムを明らかにすることで、非市場領域における仕事の分担に伴う諸問題を防ぐ方法を探る。

#### 受賞の言葉

母親として子どもを心身健やかに育てること、また、研究者として社会に貢献できるような研究を行うこと——どちらも決して簡単な目標ではなく、両方を追求することは不可能に思えることもあります。しかし、このように賞をいただけたことで、どちらの目標も大事にして良いのだと励まされた思いです。心より感謝申し上げます。



## 中田 明香

東京学芸大学大学院  
連合学校教育学研究科

研究  
テーマ

### 通常学級で特別な支援が必要な児童生徒を 担任する教師の変化・成長に関する研究

フィンランド・インクルーシブ教育からの  
ヒントと共に

#### 〔 内 容 〕

本研究は、通常学級で特別な支援が必要な児童生徒を担当する教師の変化・成長に着目した。インクルーシブ教育先進国・フィンランドでの支援実践とフィンランド教師の変容プロセス、日本の通常学級で特別支援教育を行う教師が出会う困難による変化・成長を明らかにしていく。フィンランド調査による示唆を得ながら、今後日本でさらに広がるインクルーシブ教育において、教師を支えるためにどんな支援が望まれるのか検討したい。

#### 受賞の言葉

このたびは栄えある賞に選定していただき、誠にありがとうございます。子育てする喜びと共に、研究との両立の難しさを感じる日々ですが、今回の受賞により大きな励みと力強い後押しをいただきました。研究成果を社会へ還元できるように、問題意識を忘れず、また一歩一歩進んでいきたいと思っております。

## スミセイ女性研究者奨励賞



### 畑山 直子

特定非営利活動法人サーベイ  
研究員

研究  
テーマ

#### 縮小する山村地域で継承される 技術と暮らし

— 埼玉県秩父地域における  
農林業従事者の生活史分析 —

#### 〔 内 容 〕

これまで埼玉県秩父地域へ移住する若年・壮年層の移住過程と働き方および暮らし方を社会的に分析してきた。特に秩父市大滝地区では人口減少と高齢化の進行により、林業の技術と山の暮らしが急速に失われつつある。本研究では、農林業に従事する地元出身者と移住者の生活史分析を通じて、林業の技術と山の暮らしの継承のあり方を実証的に明らかにし、林業の技術そのものや山村の現状をビジュアルデータで記録化することを試みる。

#### 受賞の言葉

このたびは大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。研究を継続できる環境をいただいたことに心から感謝いたします。研究と子育ての両立には悩むことも多いですが、子どもの好奇心と観察力に、いつも探究心を刺激されています。日々の研究時間を大切にして、真摯に、貪欲に研究に取り組んでまいります。



### ハン エンファン 范 艶芬

京都大学大学院  
文学研究科

研究  
テーマ

#### 日中国交正常化と 日本・東南アジアの経済関係

#### 〔 内 容 〕

1972年の日中国交正常化以降の日本における対東南アジア経済政策に注目し、日中両国およびそれらと利害関係を共有していた東南アジア諸国の動向を踏まえて、中国市場の復活が日本と東南アジア諸国との経済関係、とりわけ投資・貿易・援助に与えた影響を分析し、再検討する。本研究は、日本外交史およびアジア国際関係史の分野に新たな知見をもたらすとともに、経済史・地域研究など隣接分野にも成果をもたらすものである。

#### 受賞の言葉

出産当時は中国の家族に子育ての補助を依頼する予定でしたが、コロナ禍のため往来が難しくなり、一人で研究と育児をせざるを得なくなりました。研究と育児の両立は予想以上に難しく、常に不安を抱えて生活しているなか、今回の受賞を本当にうれしく思います。これを励みに、一層精進したいと思います。厚く御礼申し上げます。



## 堀内 多恵

高千穂大学  
人間科学部 兼任講師

研究  
テーマ

### アスリートの身体的不調の訴えをめぐる 心理社会的背景の探索的研究

#### 〔 内 容 〕

スポーツ競技活動において、アスリートが身体的な不調を自覚しながらも、それを周囲に訴えないことは、より深刻な怪我や疾患を引き起こすリスクとなっている。本研究は、アスリートを対象に探索的なインタビュー調査を行い、自身の不調を関係者に訴える/訴えないという意思決定に至るプロセスやその背景となる心理社会的要因についてボトムアップに検討する。本研究で得られた知見をよりよい指導や支援の提言につなげたい。

#### 受賞の言葉

夫の仕事の都合で2人の子どもを「ワンオペ」で育てています。子どもと過ごす時間はかけがえのないものである一方で、研究者としての今後に不安を抱いていました。そのようななか、本プロジェクトを通して研究を継続する機会をいただき感謝しております。今後、育児との向きバランスを図りながら、研究を着実に進めていく所存です。



## ルボフスキ 伊藤 綾

スイス・ジュネーブ大学  
文学部東アジア研究科日本学科

研究  
テーマ

### 「戦後民主主義」思想と日本の知識人 — 海外発信型の近代日本思想史研究の 構築に向けて —

#### 〔 内 容 〕

「戦後民主主義」思想の形成に大きな影響を及ぼした日本の知識人(丸山眞男、加藤周一、鶴見俊輔を中心とする)の著作は、西洋の知の枠組を受容し、日本の読者を啓蒙するために編み出された思想として、主に国内の文脈でのみ流通、解釈されてきた。本研究は、「戦後民主主義」思想の意義を問い直し、国際社会における日本文化理解の深化に貢献することを目的として海外で発信し、主に英語やフランス語で研究成果を発表する。

#### 受賞の言葉

博士号取得後に海外の大学に赴任し、国際結婚、出産しましたが、ワンオペ育児によって研究を思うように進めていくことが難しい状態が続きました。本奨励賞のおかげで、我が子と共に来日し研究滞在を行う機会をいただけることになりました。海外での孤軍奮闘の日々のなかで、日本からの応援をひときわありがたく思っています。